

令和6年度
劇場・音楽堂等機能強化推進事業
(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)
成果報告書

団体名	有限会社プーク人形劇場	
施設名	プーク人形劇場	
内定額	7,061	(千円)

1. 基礎データ

(1) 開館日数・事業本数・貸館日数

項 目		令和5年度	令和6年度
開館日数			
年間事業本数（※1）	主催事業	28	29
	公演事業	7	9
	（内、本助成対象事業本数）	3	3
	人材養成事業	6	6
	（内、本助成対象事業本数）	3	3
	普及啓発事業	2	3
	（内、本助成対象事業本数）	0	0
	その他 内容： 関連事業	13	11
貸館日数	ホールごとの貸館日数	356	372
	ホール名： ブーク人形劇場 座席数： 106	142	138
	ホール名： 5階ホール 座席数： 最大50名	214	234
	ホール名： 記入してください 座席数： 記入してください		
	ホール名： 記入してください 座席数： 記入してください		
	ホール名： 記入してください 座席数： 記入してください		

※1 事業の延べ実施回数ではなく、事業本数を記入してください。

(2) 施設利用者数・利用率

項 目		令和5年度	令和6年度
施設利用者数（※2）	主催事業入場者・参加者数	11,601	12,529
	公演事業	10,573	11,087
	人材養成事業	460	475
	普及啓発事業	568	587
	その他 内容： 上記関連事業	0	380
	貸館事業入場者・参加者数	7,238	6,792
	その他 内容： 会議利用、収録(ロケ)	1,562	845
	計	20,401	20,166
施設の利用率(%)		98.3%	101.6%

※2 実演芸術の公演等を鑑賞する者、ワークショップ等に参加する者、その他の劇場・音楽堂等の事業を利用する者の延べ人数を記入してください。劇場・音楽堂等のスタッフや、併設施設（美術館、図書館等）のみへの入場者数は除きます。

(3) 公演事業データ

事業種別		事業本数	公演回数	入場者・参加者数	入場者・参加者率	事業本数内訳						
						演劇	音楽	舞踊	伝統芸能	演芸	総合（※4）	その他
令和5年度	主催公演（※1）	9	47	4,623	98.0%	7				2		
	共催・提携公演（※2）	13	83	7,785	93.0%	9				2		2
	貸館公演（※3）	18	34	3,120	91.0%	2	4			9		3
	計	40	164	15,528								
令和6年度	主催公演（※1）	9	107	9,022	85.0%	7				2		
	共催・提携公演（※2）	9	27	2,123	85.0%	4				4		1
	貸館公演（※3）	34	53	4,650	92.0%	12	6			16		
	計	52	187	15,795								

※1 名義主催は除きます。
※2 名義共催を含みます。
※3 「貸館公演」における「入場者・参加者数」及び「入場者・参加者率」は概算で構いません。
※4 「総合」には、フェスティバル等における事業数を記入してください。

2. 公演事業の実績記録と自己評価

(1) 各公演事業における 評価項目「創造性・企画性」に関する評価指標・目標(値)

- 令和6年度助成対象事業のうち公演事業について、助成対象事業ごとに自己評価を記入してください。

事業 番号	事業名	入場者数		入場 者率	評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	備考
公-01	プーク人形劇場世界の人形劇シリーズ「ユビュ王」"UBU"	目標 値	500	83.3%	外部評価委員による作品評価	65点以上/90点満点	74.9点	入場者数は、有料目標者数ともに達成。すべてのステージをほぼ満席で迎えることができた。創造性・企画性の指標として、演劇専門家による外部評価を初めて実施した。その独自アンケートでは、すべての専門家より、高い評価を頂き、特に企画の芸術性・完成度・適時性に極めて高い評価を頂いた。予想以上にたくさんの劇評や、大見出しの新聞記事掲載があり、優れた公演事業であったと評価している。		
		実績 値	570	95.0%	観客満足度	80%以上	98.40%			
					新規来場者の割合	35%以上	36.80%			
公-02	人形劇団プーク子どもの劇場	目標 値	2,960	80.0%	外部評価委員による作品評価	65点以上/90点満点	74.8点	入場者数は、有料目標者数ともに達成。全ての回で盛況な公演事業であった。外部評価委員による独自アンケートからも、「12の月のたき火」では、高い技術と集中力を要する「出遣いマリオネット」と、物語の普遍的なテーマを伝える作品に対し、人形劇団プークの代表作としてふさわしいとの評価を頂いた。「スイミー」へは、世界的名作である原作の人形劇化公演として、その先見性と創造性へ高評価を頂いた。二つの公演ともに、人形舞台の魅力を広めていくにふさわしい作品である。今後も創造性の高い本作品の公演を、今後も発展的に続けて行かねばならないと実感する事業であった。		
		実績 値	3,145	85.0%	観客満足度	80%以上	91.56%			
					新規来場者の割合	35%以上	42.77%			
		目標 値								
		実績 値								
		目標 値								
		実績 値								
		目標 値								
		実績 値								
		目標 値								
		実績 値								
		目標 値								
		実績 値								
		目標 値								
		実績 値								
		目標 値								
		実績 値								
		目標 値								
		実績 値								
		目標 値								
		実績 値								

3. 自己評価

評価項目①:創造性・企画性

評価の観点
・(企画力)地域の状況と芸術性とのバランスが取れた、特色ある事業計画である。 ・(制作力)優れたアーティストやスタッフ等が才能や技能を発揮し、高い水準の作品制作や各種事業が行われている。 ・(発信力・影響力)圏域内外の実演芸術を牽引する成果が期待できる。 ・(レジデントカンパニー・アーティスト)当該劇場を創造拠点又は準拠点とする実演芸術団体やアーティストを擁する。 ・自由設定の観点(任意)

(1) 令和6年度の自己評価

- ・ 評価補助シートで設定した評価指標と目標(値)、及び、その達成度に言及しながら、事業類型ごとに自己評価を記入してください。

	評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	対応・追加情報など
公演事業	①友の会員の獲得 ②新しい協力者の獲得 ③独自アンケート調査による外部評価 ④連携劇場・実演家団体との連携	①新規会員の獲得 年間通じて5%以上、20名の拡大 ②前年度と同等数以上の獲得 ③90点満点中 平均65点以上のポイントの獲得およびヒアリング調査 ④6団体以上	①新規会員25名を獲得 ②実測値:15団体 目標達成 ③外部評価(20名の専門家)平均72.2点目標達成 ④連携劇場:3団体、実演家団体:5 合計8団体 目標達成	公演1,2ともに①～④全ての項目において目標を達成した。 特に公演①においては、今回の日本公演が、世界の人形劇界のスーパースター、ネヴィル・トランター氏の俳優引退公演となり、日本のマスコミからも注目していただいた。本事業の創造性と企画性を表する劇評と記事掲載であり、想定以上の成果を上げる事業であったと評している。 掲載記事は、下記の通り。 (新聞評) 毎日新聞 2024年10月8日(火)夕刊社会9面「国際的名手 ネヴィル・トランターさん引退」 毎日新聞 2024年9月29日(日)香川19面「イメージ示し観客と対話」 (告知記事)信濃毎日新聞 2024年7月27日(土)地域21面「演劇生活48年 終幕を飯田で」 また、関連事業として開催した同氏を講師に招いたワークショップ「人形のPOWER」も大好評となり、新聞記者が2日間張り付きで取材を行うこととなり、日本において極めて貴重な機会であり、優れた創造性と企画性であることを示した事業であったと評価しています。 公演2に関しても、国内各地からの来場者があり、当初予定以上の巡回公演へと発展している(「スイミー」巡回公演:全国47都市にて公演)。両公演事業ともに、「子どもの殿堂」「日本の人形劇ナショナルセンター」としての役割を発揮する。優れた公演事業であったと評価している。		
人材養成事業	①参加者数目標と満足度 ②追跡調査アンケートの集計、計測 ③事業の必要性を感じたか。継続的な受講を希望するか。 ④講師陣による事後評価、ヒアリング。 ⑤報告書(参加者全員へ配布)	①参加目標数 申請書のとおりの満足度【90%以上】 ②講座が役に立った。または実践活用した人の割合80%以上 ③80%以上 ④ヒアリング調査。成果と課題の点検と、高い評価を得る事。 ⑤成果と課題の見える化。共有化。	①【参加者数】該当事業全てにおいて前年度より増加。No.1/128名、No.2/のべ99名、No.3/63名 【満足度】参加者アンケート「本講座の満足度はいかがですか？」に対し、「大変満足」「満足」を集計。①内は「大変満足」の数値。 No.1/育成100%(78.6%)、体験100%(86.4%)、No.2/100%(81.1%)、No.3/100%(82.7%) ②追跡調査アンケート「本事業での学びを自身の活動に活かしたか？」に対し、No.1(育成)/90%、No.2/85.7%が「はい」と回答。 ③参加者アンケートより、該当事業全てにおいて100%。 ④講師陣とのフィードバックを次年度の内容に活用。 ⑤事業終了後の追跡調査の実施。 No.1において、活動報告書の作成。	No.1、No.2において、講座終了後に、独自の追跡調査アンケートを実施。「本事業での学びを自身の活動に活かしたか？」に対し、No.1(育成)/90%、No.2/85.7%が「はい」と回答。特にNo.1では、年々活用率が増加しており、事業の成果と捉えている。またNo.2では、保育・図書館関係者の受講が全体の45%であり、且つ活用実施状況も高い水準を維持している。上記から参加者が該当事業での経験・学びを子どもたちに還元していることが窺え、目標達成と捉えている。 現代人形劇の担い手の育成／次世代への継承と発展について、事業No.3では全体の約40%が人形劇関係者、約60%が20～40代であることから、ターゲット層の獲得ができた。アンケート「受講目的は達成したか」の設問に対し、「はい」が100%であったことから、若い人形劇関係者の需要に応えることができた。一方で技術の習得には長期的な取組が必要であり、活用状況は36%にとどまった。本目標は単年度では達成しえない長期目標のため、継続して同種事業を展開し、目標達成を目指していく。 追跡調査アンケートでは「このような専門性の高い講座が中々ないので開講されることが嬉しい」「大人のための学び直しや、学ぶための入口になる」等の記述が多く、事業に対する受講生・社会的ニーズがあることが窺える。引き続き追跡調査を行うとともに、ニーズに応える質の高い事業を展開していく。		
普及啓発事業						

(2) 「創造性・企画性」が向上したことを示すエピソードやグッドプラクティス事例を記入してください。

【特筆すべき成果】 1. 公演①において、俳優業を引退するネヴィルトランター氏より、「UBU」「ユビュ王」の人形を一式全てを、ブーク人形劇場へ無期限にて貸与されることとなった。劇中の人形全てを貸与頂けるとの提案に対し、当劇場は、「ユビュ王」を人形劇団ブークの新しいレパートリー化することを同氏へ提案。同じことを事前に想定して来日しておたネヴィル氏も、この申し出を快く受け入れていただいた。2026年3月に、再びネヴィル氏をブークへ招き、ネビルトランター演出・美術、出演:人形劇団ブークの俳優による公演を行うこととなった。ネヴィル氏との信頼関係を構築してきた本事業の特筆すべき成果の一つである。2026年3月、人形劇団ブーク×スタッフバベットシアター共同制作公演「ユビュ王」へむけて準備を進めている。
--

評価項目②:国際性(任意)

評価の観点
・(国際プレゼンスの向上)海外の劇場やフェスティバル、実演芸術団体等と連携し、国際共同制作や海外作品の招聘等に取り組んでいる。 ・(国際交流)アーティストや文化芸術関係者の招聘等、人的交流や情報交換が行われている。 ・(新たな創客への取組)在住外国人や訪日外国人に向けて文化芸術体験の機会を提供する等、グローバルな視座で創客に取り組んでいる。 ・自由設定の観点(任意)

(1) 令和6年度の自己評価

- 評価補助シートで設定した評価指標と目標(値)、及び、その達成度に言及しながら自己評価を記入してください。

評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	対応・追加情報など
①海外劇場・フェスティバルへの招待の獲得 ②観客の反応 ③外国人鑑賞者(参加者)数	①3件以上 ②世界の人形劇シリーズへの「また見たい」80%以上 「リピーター率」40%以上 ③40名以上	①4件の招待を受け参加 ②「また見たい」89. 1% リピーター率63.2% ③41名	①～④の目標を達成した。 特に①海外の国際フェスティバルからの招待状は毎年10件を超えており、当劇場の活動へ、一定以上の注目を集めていることを表している。本年度はそのうち4件の招待に応えフェスティバルへ参加できた。(作品上演参加:2件、講演(講師)参加1件、視察参加1件) 公演①は、人形劇界の世界的スーパースター、ネヴィルトランター氏の招聘公演とワークショップを開催。その成果は3.①創造性企画性出も記載したが、特筆す(b)期時効を(2)エピソードの欄へ記載。		

(2) 「国際性」が向上したことを示すエピソードやグッドプラクティス事例を記入してください。

国際フェス講師参加【ソウル国際人形劇祭 2024年10月31日】ソウルでの国際人形劇フェスティバルを新たに立ち上げるための1回目の記念講演会に、講師として参加。第2次世界大戦前の1929年に創立した「人形劇団ブーク」の歴史と、1971年に新宿副都心に誕生した「ブーク人形劇場」の現在までの活動の様子を伝える良い機会となった。2027年には、アシテジ世界大会ソウルで予定されている。近年舞台芸術に力を注ぐ韓国との連携を強化することはとても大切であり、今回の講演会は、7ブーク人形劇場の歴史と実績、国際コラボレーションを含むユニークな活動をプレゼンテーションする絶好の機会であった。2025年5月、世界ウニマチュンチョン大会にて、韓国ウニマ理事長はもちろん、韓国アシテジ理事長・副理事長とも再会。次年度以降への発展へ期待する。
2. ネヴィルトランター氏 国際ウニマ名誉会員へ選出・承認。第24回国際ウニマ世界大会(2025年5月／韓国チュンチョン市)において。選出理由:人形劇芸術への卓越した貢献と、UNIMAの使命と価値へのゆるぎない献身に経緯を表す。当劇場でも「世界の人形劇シリーズ」として重ねて招聘してきた同氏が「名誉会員」として選ばれたこと、我がことのように喜びを感じる。

評価項目③: 地域文化拠点機能

評価の観点
・(文化拠点) 地域の特性やニーズを踏まえ、地域の文化資源を活用するなど、地域の文化拠点として事業が組み立てられている。 ・(地域連携) 地域の関係機関と連携・協力し、地域コミュニティの創生や社会課題の解決等に取り組んでいる。 ・(児童生徒への機会提供) 次代を担う子ども達を対象とした鑑賞や体験事業が行われている。 ・ホール利用サービス(貸館事業)の向上 ※ ・自由設定の観点(任意)

※ ホール利用サービス(貸館事業)を行っていない場合は不要

(1) 令和6年度の自己評価

- 評価補助シートで設定した評価指標と目標(値)、及び、その達成度に言及しながら自己評価を記入してください。

評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評定	所見	対応・追加情報など
①連携団体数 ②シビックブランドの獲得 ③友の会会員の獲得と継続更新 ④貸し館利用者の満足度	①20団体以上 ②リピーター率50%以上、「また来たい」80%以上 ③新規入会5%20名以上 継続率90%以上 ④満足度90%以上 リピート利用60%以上	①21団体 ②リピート率63.2% 「また来たい」66.7% ③新規会員25名の獲得 継続率92% ④満足度92% リピート利用率 65%	①～④すべての目標を達成。 年間5プログラムの「子どもの劇場」公演を実施することで、小さな子どもたちから、児童生徒、家族そ ろっての鑑賞の機会とワークショップを実施している。 地域の拠点劇場として、リピート使用率も極めて高いが、新規利用者(団体)も増えている。特にブーク 人形劇場主催公演にて、協力を頂いた団体からの劇場利用も多数あり、魅力的な自主事業を行うこと で、連携団体が増加し、劇場利用者も増えるという好循環が起きている。 新宿駅から徒歩9分という好立地であることと、利用者に寄り添う親密な劇場スタッフの体制からの成 果と捉えている。		

(2) 「地域文化拠点機能」が向上したことを示すエピソードやグッドプラクティス事例を記入してください。

【文化拠点・地域連携】 1. 2023年ブーク人形劇場主催公演「平和企画」に出演した音楽団体「アカラ」の20周年記念コンサートを当劇場を会場として開催。次回のコンサートも計画中である。2023年の劇場主催企画公演からの発展的な関係の構築の一例となる。 2. 人形劇日本センターとしての拠点劇場:ブーク人形劇場では、いつも新年最初の公演を人形劇で開いている。本年2024年は1月1日元旦に「二人三番叟」、2025年1月2日、新年人形劇公演「みんなで人形劇」(日本専門人形劇団協議会主催)を開催。「人形劇のある新宿」／地域の文化拠点としての役割を担い続けている。 3. ブーク人形劇場「新作落語寄席」。ブーク人形劇場でしか聞くことのできない「新作落語」のお披露目高座として、顔付発表と同時に札止めとなる人気企画。これまでの公演回数は110回以上であり、嘶家にとっても、鑑賞者にとっても貴重な機会として定着している。 4. ブーク人形劇場は、お笑いのための劇場ではないが、お笑い芸人のデビュー劇場としても多く利用されている。(ブーク人形劇場をデビューとしたお笑い芸人は少なくない。)ブーク人形劇場をデビュー会場としようという新人お笑い芸人による口コミにより、劇場使用の申し込みは増加傾向にある。 【文化拠点と児童生徒への機会提供】 5. 子どもの殿堂として、年間5プログラムの子どもの公演の実施に加え、高校演劇の地区大会会場として劇場を提供。特にコロナ禍では、公立劇場が使用禁止という事態に対し、地域へ連携を呼びかけ、町会は自身が管理する集会室を、地域の大手予備校校舎は教室を、それぞれ控室として提供し、感染防止対策としての「密」を回避。コロナ禍以降も高校演劇地区大会会場としての利用が続いている。このような地域連携は、深い信頼関係があるからこそである。新宿を拠点に50年以上活動を続ける劇場として、今後も活発に活動が続けていきたい。
--

評価項目④:多様性とアクセシビリティ

評価の観点
・(プログラムの多様さ)プログラムの種類や形態が多様で、幅広い観客や参加者に訴求する。 ・(参画者の多様さ)アーティストやスタッフとして参画する人々の属性(性別、年代、居住地、他)が多様である。 ・(アクセシビリティ)障がいの有無や年齢、性差、国籍、居住地、経済的状況等に関わらず、あらゆる人々と実演芸術をつなぐため、施設の構造・設備上の配慮、プログラム上の創意工夫やサポート、アウトリーチ等が行われている。 ・自由設定の観点(任意)

(1) 令和6年度の自己評価

- 評価補助シートで設定した評価指標と目標(値)、及び、その達成度に言及しながら自己評価を記入してください。

評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	対応・追加情報など
①若年層の利用者数(UD18、UD25チケット販売数) ②子育て世代に向けた事業数 ③外国語版リーフレット、英文新聞の発行 ④アクセシビリティ、ハラスメント対策研修の実施 ⑤異文化共生への理解度の促進	①公一 計50名以上 (公一2は「子どもの劇場」のため目標設定はしません。) ②24事業以上 ③リーフレット6000部 英文新聞(年一回)3000部 ④全職員が参加 ⑤海外作品への観客満足度80%以上	①公一 25歳以下 33名 18歳以下 40名 合計73名(全体の12.8%) ②25事業 ③英語版リーフレット8000部 英文新聞(年一回)3000部国際郵便による海外劇団への発送件数186通 ④毎年実施 全員参加 ⑤98.4%	①～⑤すべての目標を達成した。 ①に関しては、大人向けの作品公演であったが、小学校高学年から大人まで幅広い観客層が来場したことが分かる。(公一2には「子どもの劇場」であるため、幼児から大人、家族3世代4世代での来場もある。また、高校・大学学生の来場もある事から、様々な年齢層の観客が乙ずれていることがわかる。 ②前年度に計画した子どもから大人までが楽しめる事業の他、海外アーティスト(スロベニアのトップ・パペティア)の突然の来日の知らせに合わせ、特別講演を実施した。これにより計画以上の事業数を行うこととなった。 ③通年発行している英文通信に加え、外国人観光客に向けての英語版リーフレットを、発行。 ④ハラスメント相談室を設置し、計画的に研修会を実施している。 ⑤観客満足度は極めて高いと言える。優れた海外作品を紹介し続けていることに由来するが、これは、世界中のフェスティバル・アーティストとの連携があつてこそである。世界との交流を進める劇場として、異文化共生社会の実現へ向けて、微力ながらも尽力していきたい。		

(2) 「多様性とアクセシビリティ」が向上したことを示すエピソードやグッドプラクティス事例を記入してください。

(アクセシビリティ) 居住地にかかわらず、優れた公演の鑑賞の機会の提供。公演-1事業の直接的な成果ではなく、対象外事業であるが、「ユビュ王」を札幌、名古屋、飯田、東かがわにおいてツアー公演を行った。都心部に偏りがちな世界トップクラスの作品の鑑賞の機会を、各地の劇場との連携により各地に届けている。 (プログラムの多様さ)(参画者の多様さ) 公演、人材育成:人形劇のジャンルにとどまらず、舞台芸術に携わるすべての方々、子どもから大人までが参加できるプログラムを提供し続けている。 公演-1では、日本には存在しない人形劇における高等教育(プロフェッショナル・クラス)のワークショップを開催。人形劇専門家を主たる対象者としたプログラムであったが、人形劇以外の演出家、俳優も多数参加するプログラムであった。(対象外事業ではあるが、ツアー公演各地でもWSを行い、様々な家田形が参加した。) 公演-2は、「子どもの劇場」として、幼児から大人まで、親子4代の家族で来場する家族も珍しくない公演事業である。「週末に孫が遊びに来るので、プーク人形劇場での公演はありますか？」との問い合わせも頂く。 人材育成事業:三事業通じて、人形劇専門家のみならず、演出家や大学講師が講師として参画する事業である。実践的な講座として、参画者(講師陣)も次年度の企画への期待も高い。人形劇以外の専門家と一緒に講義内容を事前・事後、報告と検証し、次年度へのプランへと反映させていく。
--

評価項目⑤: 自由設定(任意)

①創造性・企画性、②国際性、③地域文化拠点機能、④多様性とアクセシビリティ、⑥運営体制と持続可能性 の項目では成果や課題に言及しきれない事柄について、自己評価を行ってください。

評価の観点

- (1) 令和6年度の自己評価
- 評価補助シートで設定した評価指標と目標(値)、及び、その達成度に言及しながら自己評価を記入してください。

評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	対応・追加情報など

評価項目⑥: 運営体制と持続可能性

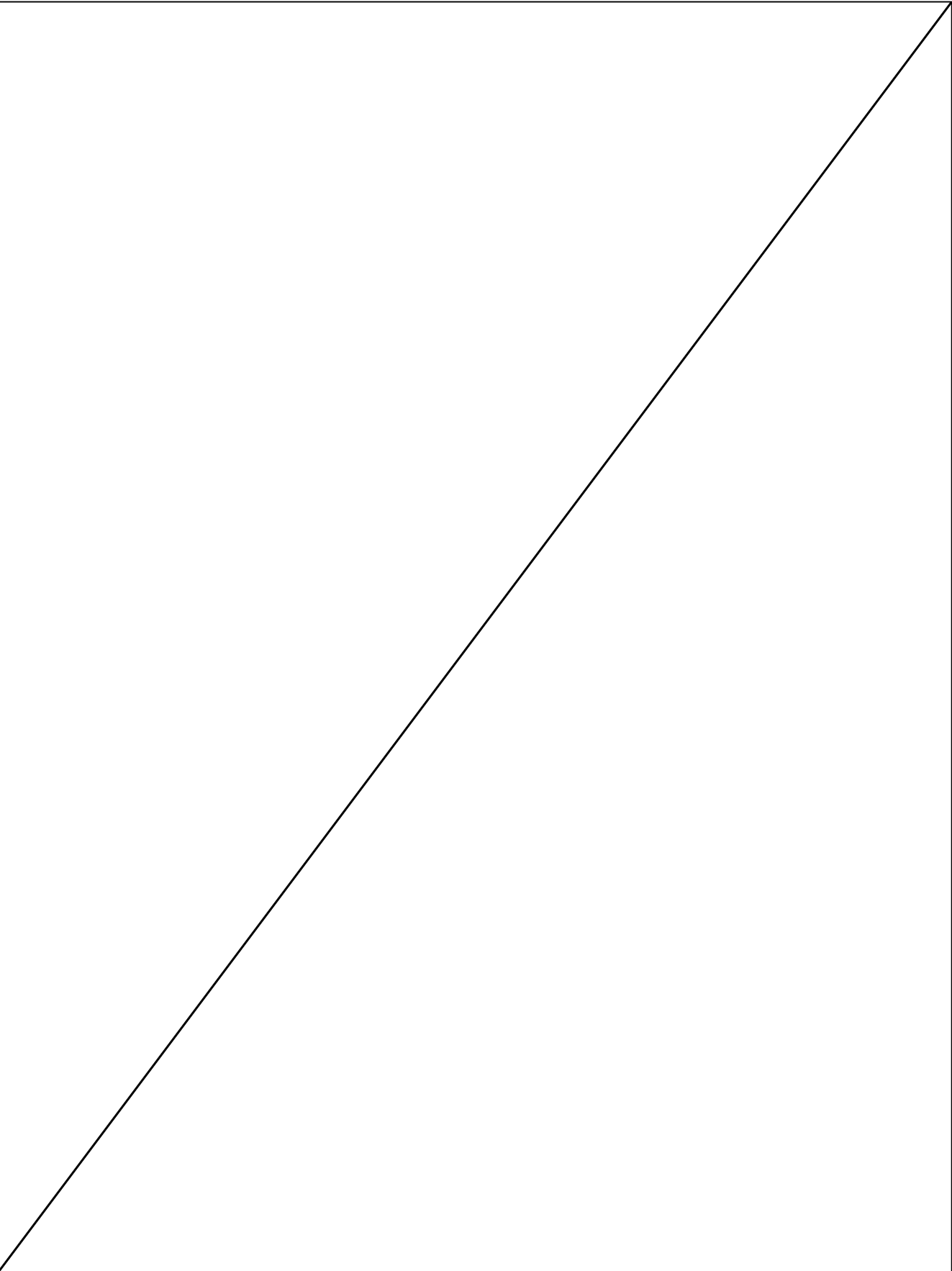
評価の観点		現状	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	対応・追加情報など
「実現性」の評価項目より							
(ア)	(多様な財源の確保) 予算計画が妥当であり、事業収入のほか、各種助成金や寄附金・協賛金等の獲得に努めている。	大いに務めています。	魅力ある企画を次々と発信することで、さらなる協力者の獲得を目指す。	各種助成金: オランダ大使館、EUジャパン文化関連の助成金以外に、仕事の効率化、省エネなど、様々な申請を行っている。	助成金や外部資金の獲得は必須となっている。この状況は、決して喜ばしいことではないと感じていますが、獲得に向けて大いに努力していると評価しています。		
(イ)	(広報・営業力) 広報計画が充実しており、券売や集客、会員制度等の拡充に努めている。	大いに務めています。	日々変化する広報媒体に対応し、タイムリーな情報発信に努める	HP、イベントページ、SNSの活用、文字情報と共に動画の配信(ティザー動画含む)を進める 友の会会員: 525名 友の会の集いなど、会員限定のイベントと共に、ボランティア会員の登録化を進めている	SNSの多様化に伴い、広報の仕事量が極めて増加している。また、英語対応の広報物の需要も高く、課題は多い。ほぼ無限とも感じる広報活動の中で、一定の制約を設けて、適時適正な広報作業を「選ぶ」広報計画が必要となっている。		
(ウ)	(他館連携) 他の劇場・音楽堂等との事業連携や協力・支援を通じて、効果的で効率的な事業運営を行っている。	他劇場との連携を拡大を進め、効果的、効率的な事業展開を進める。	連携劇場の拡大と深化を進める。	(公演1) R6年度の企画の連携劇場: 4団体 (公演2) R6: 8劇場	当劇場は、国内の人形劇場との独自のネットワークを基盤として、各地の劇所と積極的な連携を進めています。劇場の長い歴史とこれまでの実績、そして企画性の高い事業内容が、劇場間連携の推進力となっています。本年度は、特に専門性の高い事業を展開し、各劇場との連携をより一層強化できたと評価しています。		
(エ)	(設置者) 円滑な事業の継続のため設置者と適切に意思疎通を図っており、設置者による人材や財源の確保等が期待できる。	年4回の総会を通じ、意思疎通と理解促進を促し、人材確保を進めている。	不測の事態にも対応できる体制の強化。	年3回の総会、養成所の開校での新規入団者3名。	各事業の実施状況および成果については、団体全体に対して周知を徹底しています。これにより、関係者間で情報を共有し、活動の透明性を確保しています。 総会においては、各事業の報告とその承認を常に行うことで、組織運営の健全性を維持しています。 人形劇団ブークを含む独立した3法人と連携しながら、人材の確保および資金の獲得に努めています。この協力体制によって、各法人の発展と安定した運営を目指しています。		
「持続可能性に関するチェックシート」より							
(オ)	(芸術監督) 芸術監督等、劇場運営の芸術面を統括する人材が配置されている。	配置済。		定期総会により選出。本年度は再任	再任を受ける。これまでの実績を評価していただいたことと受け止め、引き続き尽力していく。		
(カ)	(長期的経営) 長期的視点に立ち、劇場運営を統括する、経営実務者が配置されている。	配置済。	中長期計画へ向けた具体化と確実な実施を行う。	公益性の高い「一般社団法人」の設立へむけて、総会承認を受ける。	R7年秋設立登記を予定。 来年2026年は劇場誕生55周年を迎え、2029年は「人形劇団ブーク創立100周年」を迎える。周年事業準備委員会を設置した。長期的展望を団体構成員全員が自身の展望として胸に抱き活動を進めていく。		
(キ)	(専門人材の確保) 今日的な劇場運営に必要な職能や専門性を踏まえ、運営体制が整備されている。あるいは専門人材の確保や育成に努めている。	大いに務めています。	他の劇場・音楽堂との人材交換を的確に計画し実施してゆく。	養成所により、優れた人材の確保を進める。在籍する構成員へは、魅力ある事業を取組むことと、適時技術研修と点検を進める。	養成所の開校は、新規人材の確保という目的だけでなく、教育を担当する職員にとっても重要な機会となります。職員は指導を通じて、自身がこれまで培ってきた技術や知識を再確認し、より深く理解することができます。このように、養成所の運営は組織全体の技術力向上にも寄与しています。		
(ク)	(職制の整理) 芸術監督、館長、支配人、プロデューサー、その他管理職の職位及び職能、一般職員の職務内容等が専門性を基に整理され、役割分担されている。	成されています。	現状を維持	定期総会を通じ、適正な人員配置となるよう、定期的に検証し、評価を行い、年度初めに改めて配置している。	年3回開催される定期総会は、事業の進捗や内容を点検する重要な場となっています。また、各メンバーが互いに評価を行うことで、組織内で適材適所の人材配置を実現するための機会ともなっています。これにより、組織全体の運営効率やメンバーの能力発揮が促進されています。		
(ケ)	(世代間バランス) 年齢バランスを考慮した人材確保を行っている(若年層の雇用に努めている)。	行っています。務めています。	次世代人材の確保と人材育成は、日々日常活動の中軸です	シニア世代の定年による機械的な退職を避け、若手とともに働き続けられる職場環境の整備に務めている。	当劇場は、長い歴史を持つ施設です。シニア世代は、団体の歴史や思想、さらには技術や様式を次世代へとしっかりと継承しています。一方、若手メンバーは新たな発想を積極的に取り入れながら、事業の発展に取り組んでいます。さらに、計画的に新規人材の確保も進めており、組織の持続的な成長と発展を目指しています。		
(コ)	(ジェンダーバランス) 女性管理職比率が30%以上である。あるいは、女性の管理職やリーダー職への登用に努めている。	女性職員数50% 女性管理職33%	現状を維持	女性職員数50% 女性管理職33%	この職場は、比較的女性が多い環境となっています。男女ともに働きやすい職場を目指し、家庭や経済状況に合わせて勤務時間を調整し合う環境整備に努めています。女性の登用に対しては、いかなる抵抗感も全く存在しません。女性が社会で活躍できる機会を積極的に提供し、職場としてもその姿勢を維持しています。		
(サ)	(ワークライフ・バランス) 仕事と育児・介護等の両立支援制度を整備し、推進している。	育児休業促進ガイドラインを周知徹底しています。昨年度、今年度ともに男性育児休業実施済	現状を維持、随時対応する。	R6年度: 男性育児休業利用あり。	子育て中の構成員へは、時短勤務制も実施(男女ともに)。働きやすい環境づくりに心がけている。一方、一部職員や俳優への仕事が集(特に多忙期)が起こりやすい現状が散見される。		
(シ)	(コンプライアンス順守) 情報セキュリティをはじめ、各種コンプライアンスの順守規定を策定し、必要な研修を行っている。	コンプライアンス室設置済	研修の促進	コンプライアンス室 継続配置	毎年定期的に研修を実施。		
(ス)	(ハラスメント防止対策) 職場内及び創作現場におけるパワー・ハラスメント、セクシュアル・ハラスメント等防止のための指針等を策定・周知し、必要な研修を行っている。	ハラスメント対策室設置済	研修を継続的に行う。	ハラスメント対策室 男女ともに担当者を配置。	毎年定期的に研修を実施。		
(セ)	(適正な契約事務) アーティストやスタッフと適正な契約書を交わしている。	インボイス制度による業務負担が増加。官公庁による在日外国人への周知不足を感じています。	フリーランス(特に在日外国人)との話し合いを継続中。	適時適正な契約を進めている。	特に海外実演家との連携に際しては、契約書の作成が不可欠です。日本と海外の公務員規定(旅費規定)には大きな乖離があり、こうした差異により、事業に向けた契約締結の際には多くの苦労が伴っています。		

4. 総評

・ 団体の自己評価

《ミッションと活動方針》
プーク人形劇場は、「人形劇で人・地域・都市・世界をつなぐ」ことをミッションとし、以下の活動に取り組んでいます。
●子どものための文化拠点
●世界とつながる人形劇のナショナルセンター
●地域の文化拠点
●地域連携
●多様な人材育成
《2024年度の主な活動》
今年度はミッションに基づき、公演や人材育成事業を実施しました。コロナ禍後、人の移動は活発になりましたが、物価高騰の影響で観客数は依然として伸び悩んでいます。2024年は20,166名が来場し、2019年の21,000名には及びませんでしたが、公演事業や人材育成事業では入場者数や満足度、新規来場者、専門家評価、協力者獲得など各目標を達成しました。また、国際性、地域文化拠点、多様性とアクセシビリティも目標通りに進展し、特に海外4件（アジア2・欧州2）のフェスティバルから招待を受けるなど、当劇場の活動を広く発信できました。
《公演事業》
●公演1
公演1では、公演とあわせて2日連続のワークショップを実施しました。ネヴィル・トランター氏が俳優引退となる記念公演は、どの会場も満席となりました。ワークショップには国内各地の人形劇俳優や舞台芸術専門家などが参加し、新聞記者が2日間にわたり取材、複数の新聞に記事が掲載されました。国内4会場で巡回公演を行い、それぞれの会場で2日間のワークショップも実施しました。今後はネヴィル・トランター氏を2026年に招聘し、「ユビュ王」の公演を予定しています。本作品は劇団プークのレパートリーとして継続的に上演する計画です。日本の人形劇界の新機軸となることが期待されています。
●公演2
公演2では、「スイミー」「ゆうびん屋さんのお話」（プログラム①）と「12の月のたき火」（プログラム②）を計26日間37回上演しました。「スイミー」は各地で好評を得て巡回公演につながっています。「12の月のたき火」は、年末年始に家族で楽しめる質の高い作品です。
両プログラムでは、作品への期待感を高めることを目的として、地域と連携したワークショップが実施されました。プログラム①では、子どもたちが「スイミー」の形に模したこいのぼりを作成し、劇場や近隣施設（旧代々木小学校）の校庭で展示しました。「12の月のたき火」公演では、マリオネット制作やクリスマス飾り・門松づくりなどのワークショップが行われ、新宿・渋谷地域の町会・商店会・PTAとの協力により、劇場と地域が連携したイベントとなりました。
巡回公演を通じて、日本各地で人形劇が開催され、親子で参加できるさまざまな取り組みが行われています。プーク人形劇場は定員106名の小規模な劇場ですが、劇場発信の作品を全国に届ける活動や、ワークショップの展開を行っています。これらの活動では、レジデンス劇団「劇団プーク」と連携して事業が進められています。また、人形劇を通じて地域や都市、世界各国とつながること、および人形劇ナショナルセンターとしての機能を担う事業展開を目指しています。
《人材育成事業》
人材育成事業1～3を含む全ての事業で、参加者数および満足度が目標を達成しました。事後アンケート（追跡調査）では、参加者が講座で得た知識を各分野で活用していることが確認されています。各講座・事業は、会場や人的リソースの制約がある中で、講座回数の増加などにより高いニーズに対応しています。また、修了生をボランティアスタッフとして起用した点は、継続的な講座実施の成果といえます。今後も引き続き事業を実施し、ファシリテーターや団体を支える人材の育成を進める予定です。
《運営体制と持続可能性》
スタッフ構成の変革と世代間協力
プーク人形劇場は1971年に創設された伝統ある劇場ですが、かつてはスタッフの高齢化が課題となっていました。2014年以降、若手スタッフの採用を強化し、定年制を設けない方針を導入することで、ベテランと若手が共に働く体制を整えています。この取り組みにより、劇場の歴史や実績を語る人材と、成長する若手スタッフの両方が増加しました。若手スタッフは新しい視点やエネルギーをもたらし、劇場の活動や運営に変化をもたらしています。また、世代を超えた協力体制が進み、劇場全体の活性化につながっています。
運営体制および持続可能性の取り組み
●劇場設備の照明LED化：R7年度に大規模な照明改修工事が予定されており、閉館を伴うため長期的な計画が必要でした。今年度は東京都の補助金を獲得し、改修の目処が立っています。申請作業は若手スタッフが担当し、劇場施設の維持・更新に向けて若手とベテランがチームとなって取り組んでいます。
●法人格の移行：R6年度には有限会社から一般社団法人への移行計画が進展し、新法人の設立はR7年度に予定されています。これは若手とベテランスタッフの協力による成果であり、今後も持続可能な体制構築に継続的に取り組んでいく方針です。

・ 所見



R6 劇場・音楽堂(地域の中核劇場) 「プーク人形劇場」

①プーク人形劇場年間来場者数の推移(地域別)

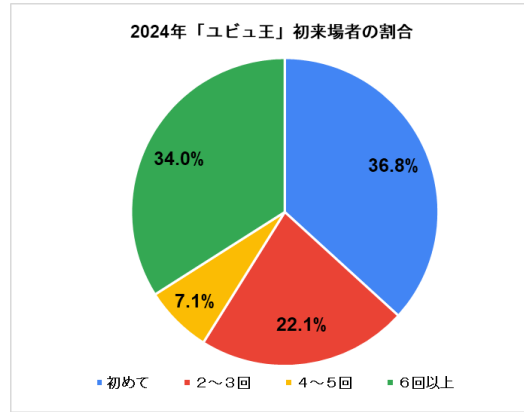
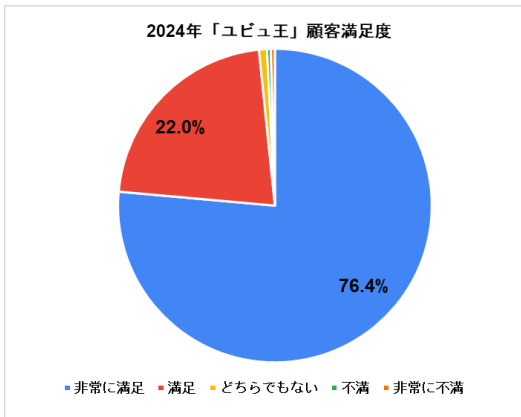
プーク人形劇場 年間来場者数(全国地方別)				
	2019年	2023	2024	
	来場者(名)	来場者(名)	来場者(名)	%
北海道	70	18	13	0.1%
東北(北)	33	6	7	0.0%
東北(南)	149	97	56	0.3%
北関東	690	66	44	0.2%
都内	11,426	15,149	15,141	75.1%
南関東	5,367	3,873	4,003	19.9%
中部(東海)	619	243	141	0.7%
中部(上信越)	274	110	98	0.5%
関西	304	119	76	0.4%
中国	132	27	13	0.1%
四国	106	18	18	0.1%
九州・沖縄	309	218	104	0.5%
その他	2,149	457	452	2.2%
計	21,628	20,401	20,166	

※1月～12月にて集計。
※その他…未記入の他に、
外国人を含む

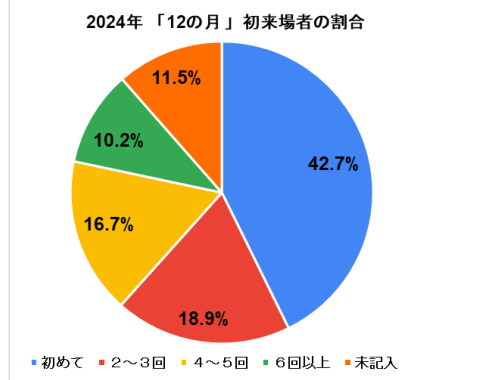
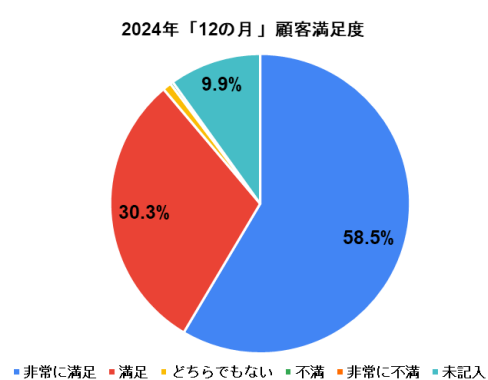
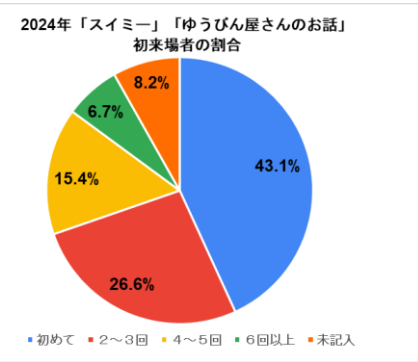
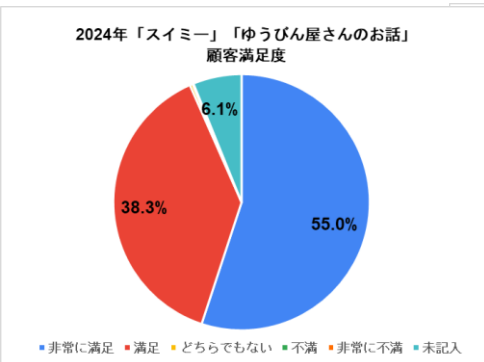
↓②連携劇場の推移(世界の人形劇シリーズ)

世界の人形劇シリーズ				
年	演目・国名	公演形態	上演数	都市(会場)
2018	「三銃士」 チェコ	招聘	31	札幌・東かがわ・新宿・渋谷(2会場)・飯田・ 名古屋・那覇・宜野座村・佐久・高崎(2会場)
2019	「ネヴィル・トラ ンターの世界」 オランダ	招聘	17	札幌・東かがわ・新宿・飯田・名古屋 三次
2022	「快傑ゾロ」 チェコ	招聘	36	知立・武豊・京都・南あわじ・東かがわ・名古 屋・岡山・大阪・高崎・藤沢・札幌・砂川・新宿・ 伊豆大島・渋谷(2会場)
2023	「カモメ〜 ブルガリア	共同制作	11	渋谷・東かがわ・知立・名古屋
2024	「ユビュ王」 オランダ	招聘/WS	14 (WS:11日)	飯田・札幌・名古屋・東かがわ・渋谷

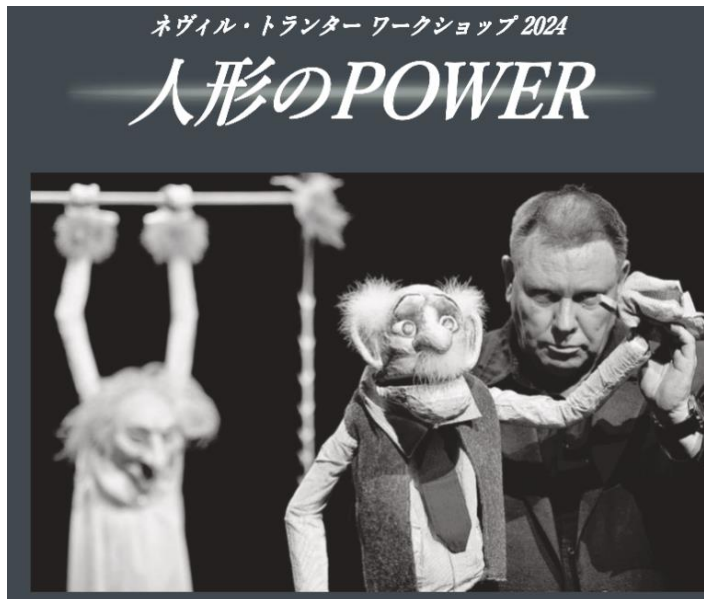
③公演1「ユビュ王」観客満足度／初来場者の割合 (アンケート集計結果・回収率 48.2%)



④公演2「スイミー／ゆうびん屋さんのお話」・「12の月のたき火」観客満足度／初来場者の割合



⑤ ワークショップ報告書表紙と1ページ(半分)掲載(全30ページ)



Work shop

【1日目 人形劇との出会い】

ネヴィル 私が教えるのは「技術(technical)」です。私は学校で4年間、演劇の勉強をしました。その後2年間、人形劇について学びました。恵まれたのは、2人の素晴らしい先生に出会えたことです。1人は演劇の、もう1人は人形劇の先生でした。この2人に出会ったことにとても感謝しています。

私はオーストラリアのとても小さな村で生まれました。大学では教員になる為に勉強していましたが、その時に2人の先生に出会いました。私は演劇に興味があったので、夜は演劇の授業を受けていました。その時、自分は舞台に関わりたい、私は演劇の仕事がしたい、と思いました。

演劇の先生が、ある老夫婦の人形遣いを授業に招きました。彼らは昔ながらの伝統的な「けこみ」[※]を使っていました。生徒は全員18〜19歳くらいでしたが、誰も生の人形劇を見たことがありませんでした。それはいとも美しい人形でした。そして彼らの芝居を見て、「私は人形劇人になりたい」と思いました。人形劇という世界を見つけた瞬間でした。もともと私は、自分の手を使って何かしらを書いたり作ったりすることが好きでした。人形劇は、ただただ手を使って何かを書いたり作ったりするだけではなく、人形を使って自分の描きたい世界を作る事が出来ました。私の物語を話すために。



▲バーシー・プレス(英)「Punch and Judy」1973年来日時のもの。

・毎日新聞 2024年10月8日(火) 夕刊社会9面
「国際的名手 ネヴィル・トランターさん引退」→



⑥ 掲載記事ほか (新聞評)

・毎日新聞 2024年9月29日(日) 香川19面 「イメージ示し観客と対話」(告知記事)
・信濃毎日新聞 2024年7月27日(土) 地域21面 「演劇生活48年 終幕を飯田で」